

令和3年度一般選抜  
試験問題（前期日程）  
小論文（モデル問題）  
出題意図・解答例  
（教育学部 学校教育課程Ⅰ類）

【出題意図】

1

問1 教員の労働や教員を取り巻く環境に関するデータを読み解き、資料と関連づけながら課題点を指摘できる情報活用能力を評価する。

問2 他業種における長時間労働の解決に関する課題文と4つの資料を踏まえて、教員の長時間労働に関する解決策を提案できる思考力・判断力・表現力を評価する。

2

人文学、社会科学の分野の内容に関するまとまった分量の文章を読み、問に対して自分の言葉で適切に解答する能力を評価する。

問1 文章中の特定の情報を正しく読み取り、その内容を説明する能力を評価する。

問2 文章全体から要旨を正しく読み取り、その内容を説明する能力を評価する。

問3 複数の文章を読み、情報を整理しながら考えなどを形成するとともに、それらの文章に書かれている事実や意見等を適切に引用しながら、自分の意見を根拠とともに述べる能力を評価する。

3

設問A

物理、地学で扱う素材を基にしながら、数学的な処理を行い、論理的な思考力や問題解決できる力を評価する。特に、問1から問4では、主として「高等学校までの基礎学力を備えているか」および「習得した知識を活用して問題を解くための思考力」を評価する。

問1 日常生活や社会の事象を数学化したり、数学的に処理したりする技能を評価する。

問2 得られた結果を基に拡張・一般化する力を評価する。

問3 地学的な事象を数学化したり、数学的に処理したりする技能を評価する。

問4 解決過程を振り返り、得られた結果を地学的事象に活用する力を評価する。

問 5 教師に要求される幅広い教養と深い専門的知識・技能を身につけているかを評価する。

## 設問 B

生物学で扱う素材を基にしながら、論理的な思考力や問題解決できる力を評価する。特に、「問題を解決するための実験方法を考える力」および「実験結果を考察し、規則性を見いだす力」を評価する。

問 1 実験の条件制御を理解しているか評価する。

問 2・問 3 実験の意図を正しく理解しているか評価する。

問 4 理科の実験に必要な器具の適切な使い方を理解しているか、および、その方法を他者に伝える技能を評価する。

## 【解答例】

1

問 1

(解答例 1) 教員の仕事は、資料 1 から見ると他業種と比較して著しく労働時間が長かったり休日が少なかったりするわけではない。しかし、資料 3 にある通り、1 日の平均労働時間が 11 時間を超えていて、残業も多いというデータがあることから、厳しい労働環境にあることが分かる。その要因として、資料 3 には「業務量が多い」ということが挙げられており、そのために資料 4 の通り「授業の準備をする時間がない」「仕事に追われて生活のゆとりがない」という悩みにつながっている。その原因の 1 つが資料 2 にある教員の年齢構成と考えられる。若手が多く、中堅が少ない構成であることから仕事が特定の人に集中してしまうことが予想される。また、資料 3 の「予定外の業務が突発的に発生」ということから、保護者への対応や生活指導が必要な子どもへの対応が必要だという授業以外にも様々な仕事を抱えているという教員の働き方の問題も考えられる。(386 文字)

(解答例 2) 教員の労働を取り巻く環境は厳しいと言える。資料 3 にあるように、平均勤務時間が教頭で 12 時間、教諭で 11 時間を超えており、長時間労働が常態化している。業務量の多さを訴えるものが 69.6%おり、その上に予定外の業務が突発的に発生している状況であり、これらのことが資料 4 にあるような「授業の準備をする時間が足りない」という悩みを生み出していると考えられる。また、職場の人間関係にストレスを感じている人が 40.2%いる。資料 4 から、保護者や児童・生徒との関係に悩む教員も多いが、ほぼ同じ水準で教職員同士の関係に悩んでいることが分かる。資料 2 から 2004 年に比べて 2016 年では 40 代のミドルリーダー層が減り、50 代後半のベテラン層と採用直後の 20 代の層に分かれている。このような職員構成の状況がベテラン層と若手教員を分断し、対話や人間関係の構築を阻んでいる可能性がある。このような状況から教員の仕事を過酷だとする印象が持たれるが、資料 1 を見ると他業種に比べてむしろ残業時間などは少なく、有給休暇も取得しやすい環境だと言える。(441 字)

## 問 2

(解答例 1) 課題文にある企業の残業発生のメカニズムは学校現場にも当てはまるであろうが、教員の長時間労働を解消する方策には、教員特有の労働環境を考慮すべきである。

課題文には、長時間労働が生まれにくい組織に求められるものとして、業務・時間・コミュニケーションの透明化が挙げられている。教員の労働環境では特に、業務と時間の透明化が難しいと考えられる。それは、資料3の通り、教員には日常の業務以外に予定外の突発的な業務が多く発生するからである。そのため、管理職がどの先生がいつどんな仕事をしているかという業務を把握したり、その教員が時間内に業務を終えることも困難したりするため、長時間労働になりやすいのである。そこで、考えられる方策は、教員間のコミュニケーションを透明化することである。確かに業務が多い教員は、教員同士のコミュニケーションを取ることも困難であろう。しかし、業務が多いからこそ、コミュニケーションが必要である。仕事に追われてゆとりがなく自信が持てない教員、やる気はあるが経験不足の若手教員は、管理職や経験豊かな教員に業務上の問題を相談し、助けてもらうことで、円滑で素早い解決につながるだろう。業務が集中する中間管理職も自分で全てをするのではなく、他の教員に割り振ることで、業務を分散することができる。年齢構成のアンバランスがある現在の労働環境では、教員同士のコミュニケーションを増やすことが、業務の共有や業務時間の短縮をもたらし、業務・時間の透明化を実現し、長時間労働を解消する最も有効な方策と考えられる。(650文字)

(解答例 2) 教員の長時間労働を是正するためにはコミュニケーションの質を向上させることが必要である。課題文には残業を生み出す要因が4つ挙げられているが、その中の「感染」が教員の長時間労働を生み出す大きな原因になっていると考えられるからである。資料2にあるように、教員の年齢構成の二極化が近年進んでいる。このことが教員間のコミュニケーションを阻害し、人間関係を難しくしている可能性がある。実際、資料3、資料4にあるように、職場の人間関係にストレスを感じている者は多く、精神疾患の要因にもなっている。また、課題文にあるように、20代は50代の二倍近く帰りにくさを感じており、残業を誘発するような同調圧力に苛まれている。課題文では、長時間労働の生まれにくい組織を目指すためには、コミュニケーションの透明性が重要であり、言いたいことが言えない職場では「感染」が起りやすいと指摘している。資料2から、年齢構成が50代と20代に二極化しており、中間層が薄いため、特に50代と20代のコミュニケーションを促すことが重要である。互いに意見を出し、受容しあうことで繋がりを生み出すのである。例えば、資料4に挙げられるような悩みを気軽に話し合えるような透明性の高いコミュニケーションを図れるような場面を設けていく必要があるだろう。世代の違うペアで話せる場面、同世代のグループで話せる場面といった多様なコミュニケーションを図れる「職場ぐるみの対話と働き方の改善活動」を管理職がマネジメントしていくことが求められるのだ。(636文字)

## 2

### 問 1

(1) 自分の考えや気持ちを表現しようとするのではなく、学習した英文の一部を変更する

ことで、文法と単語を規則に合わせて間違いのないように表現しようとする。

- (2) 「引用ゲーム」の中では、子どもや生徒は自分の考えや気持ちとはあまり関係のない英語を話したり、書いたりすることを繰り返す。そのため、「引用ゲーム」に取り組み続けることで、学習者は英語での表現を、自分の考えや気持ちを表わすこととは無縁と考えるようになり、自分の考えや気持ちを即興的に英語で表現することが苦手になってしまうという問題を引き起こすと筆者は考えている。

問 2 筆者は「教室での英語教育を改善する」には、中学校・高校の英語教師が高度な英語力を身につけられるよう自己研鑽に対する支援を行い、それらの英語教師が学習者に上質な英語の基礎を伝授すればよいと述べている。筆者の言う「上質な英語の基礎の伝授」とは、学習者に文法や読解の基本を学ばせ、それを会話に応用する練習をさせるなど、学習者が自らの必要に応じて英語力を積み上げるための基礎固めと学習の方向付けを重視した指導を行うことである。

### 問 3

(解答例 1) 私は小、中学校における英語教育では、児童生徒に英語を言葉として学ぶ経験をたくさんさせるべきだと考える。

私も、文章イが述べるように、日本語の母語話者が英語を習得することは楽ではないと思う。しかし、人・物・お金そして情報がものすごいスピードで動く世界の中で、英語を用いたコミュニケーションは確実に広まっており、英語教育の重要性が高まっていることは否定できないと思う。もちろん「英語一辺倒で良いのか」、「翻訳技術の開発で対応してはどうか」といった指摘があることは理解しているが、私は、少なくともこれまでよりも多くの日本人が、文章アにある「自分の考えや気持ちを即興的に英語に乗せ」て表現する力を求められるようになってきていると思う。それでは日本の英語教育はどうあるべきなのだろうか。

私は、文章イ同様、英語学習には「基礎固めと学習の方向付け」が肝要であると思う。そして私はそのために必要なものこそ、文章ウ、エに共通する、コミュニケーションを取る相手（話し手、聞き手、読み手、書き手）や場面を意識しながら、自分が知りたいことを英語で理解したり、自分が伝えたいことを英語で表現したりするような、英語を言葉として学ぶ経験を積ませることであると考えている。このような経験を通して英語で何かができるようになることで、児童生徒は英語を学ぶ喜びを知り、英語とその学び方について理解を深めるのではないだろうか。(590字)

(解答例 2) アの文章が指摘するように、これまでの英語教育は、読みたいわけでもない英文を読み、自分の考えや気持ちとは無縁の「引用ゲーム」ばかり行ってきたように思う。そもそも英語運用能力を身につけるにはとてつもない努力が必要であり、「6年間、週に4、5時間程度習ったら英語が話せる／使えるようになる」という前提が誤っているのではないかというイの文章の指摘はもっともである。

他方、私は、現代はITの時代であり、英語教育について考える際には機械翻訳の進歩も考慮に入れるべきではないかと考えている。

英語の学び始めとなる学校教育での入門期では、英語そのものの教育も大切ではあるが、

同時に英語に限らず、およそ文章を読んで理解することは楽しいという気持ちを育てることに力点を置くべきである。文章を読みたいという気持ちは、読みたい文章に出会ってこそ育つのであり、それが英語で書かれた文章ならば、機械翻訳の助けを借りて読む経験を重ねていけばよい。もちろん機械翻訳は万能ではないため、機械翻訳では意味不明な部分も多く出てくるかもしれない。しかし、英語を使っている世界中の人たちが楽しんでいるコンテンツ（例えばマンガや小説）を自分も同じように楽しめるようになりたいという強い思いがあれば、生涯をかけて、それこそとてつもない努力をしてでも英語を学ぼうとする姿勢が自然と育つのではないだろうか。（577字）

3

設問 A

問 1 1.5km

問 2 (1) (例) 
$$\left( \frac{1}{\tan \alpha} + \frac{1}{\tan \beta} \right) d = 4$$

(2) (省略)

問 3 (例) 
$$\left( \frac{1}{\tan \beta} - \frac{1}{\tan \alpha} \right) h = L$$

問 4 (省略)

問 5 (省略)

設問 B

問 1 水が気体発生に関与しないことを示し、ブタの肝臓に含まれる酵素の役割を明らかにするため。

問 2 試験管 B と試験管 C

問 3 試験管 A・B・D の比較より、ブタに含まれる酵素の触媒としてのはたらきを示すため。また、試験管 C・E を比較して、無機物とは異なる生体触媒の特徴は、熱によってはたらきを失うことを示すため。

問 4 (1) (省略)

(2) (省略)